



ほっとするね
緑の府中

第 64 号

指導室 だより

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町2-24
電話 042-335-4063

自分の人権を大切に、 それと同じように他人の 人権も大切にしましょう

II 第13回府中市小・中学生の人権作文発表会

第13回府中市小・中学生の人権作文発表会が12月7日(日)府中の森芸術劇場ふるさとホールで行われ、大勢の保護者、市民、各種団体の方々が参加した。始めに、野口忠直市長より、以下のような挨拶があった。

「21世紀は、人権の世紀といわれております。しかし、最近の痛ましい事件を見聞きしますと、人権とは何なのかと改めて考えさせられます。本市では、未来を担う子どもたちに人権についての関心を高めてもらうために様々な機会を設けて人権尊重の大切さを考えていただきたいます。その一つとして本日の小・中学生による人権作文発表会を行っています。今回は6000点を超える応募作品の中から代表して発表していただきますが、人権の尊さなどについて日頃感じていることや取り組んでいることなどを考えながら発表してほしいと思います。そして、それを改めて考え、今後の生活の中に役立ていってほしいと思

小・中学生の作文の発表後、「大人からのメッセージ」では、人権作文実行委員会副委員長・府中市立住吉小学校伊藤顯校長より

「小学一年生の道徳の授業で『友達をふやす魔法の言葉』を考えてみようということで行いました。友達をふやす言葉としては、○大丈夫(いたわりや思いやり)○ありがとう(やさしさや素直さ)○一緒にやろう(一緒に力を合わせて努力する)。これらの言葉は友達ができる言葉です。昔は家族も多く、みんなでお年寄りなど目上の人を敬つたり、いたわり合うことが学べました。人の関わりが少なくなったり、やさしさや思いやりは育ちません。この三つの言葉は、人との関わりの基本です。大人にとってもやさしさや思いやりは、人権の中核です。三つの魔法の言葉でやさしさや思いやりのある子どもを育てていきました」とのメッセージがあつた。

「大丈夫ですか?」

府中市立府中第六中学校
第三学年 今井信太朗さん

僕は別に耳が不自由ではありません。目もしっかり見えます。僕の身体についている両手も自由自在です。もちろん口もきけます。僕は中学一年のころ、このようなことを人として当たり前に見ていた時がありました。もしあの日、あの人に会っていたかもしれません。いや絶対に違っていたはずです。

あの日、僕は用があり、一人で府中にいました。用をすませ、電車で帰ろうと思い、券売機に向かって歩いている時、転びそうになりました。しばらく興奮していましたが、気が付いてその人を正面から見てみました。その人は僕には気付かず、何かを探していました。しばらく駄声の一つでも言いました。かっこたけれどドアにはばまれてしまい、電車は行ってしまいました。かっこたけれどドアにはばまれました。しばらく駄声の一つでも言いました。声をかけようとしていました。肩を叩きながら「大丈夫で



府中市立府中第六中学校
第三学年 今井信太朗さん

「大丈夫ですか?」

ないよなあ」と思いながら切符を買ってホームに行きました。何気なく前の人を見て、「この人目が見えないのかな」と思いました。30歳位の目を閉じたその人の手には白いステッキがありました。以前僕はどこかで

すか?」と聞きました。その人は顔を上げると、「ああ大丈夫。ありがとうございます」と言い、また何かを探し始めました。僕は不思議に思いながらも、あのステッキを探しているのかなと思い、見回したところ、その人の足のすぐ近くにステッキはありました。また、肩を叩きながら、「これですよね」と聞くと、嬉しそうに触ってみて「ありがとうございます。でも電車行っちゃったね」と言わされました。その人は立ち上がって「次は何分に来るかね」と言つたので、「えっと、次は56分ですね」と伝えると、うなずきステッキをさすりました。

不思議に思いながらも電車が来たので一緒に乗りました。降りる所も一緒だったので一緒に降り改札口に向かいました。あの人前、僕が後ろに付いて歩いているその時、足元にあの点字ブロックがありました。自分の頭の中で勝手に納得して一人で喜んでいると、後ろから誰かが走ってきました。僕はその人を守る気持ちで、走ってきた人に自分がぶつかり何とか守れました。改札を出てその人に「あの失礼とは思いますが、ぶつかられた時に悔しいと言うか何て言つたらいいか分かりませんが、そういう気持ちになつた事はあ

すか?」と聞きました。その人は顔を上げると、「ああ大丈夫。ありがとうございます」と言い、また何かを探し始めました。僕は不思議に思いながらも、あのステッキを探しているのかなと思い、見回したところ、その人の足のすぐ近くにステッキはありました。また、肩を叩きながら、「これですよね」と聞くと、嬉しそうに触ってみて「ありがとうございます。でも電車行っちゃったね」と言わされました。その人は立ち上がって「次は何分に来るかね」と言つたので、「えっと、次は56分ですね」と伝えると、うなずきステッキをさすりました。

不思議に思いながらも電車が来たので一緒に乗りました。降りる所も一緒だったので一緒に降り改札口に向かいました。あの人前、僕が後ろに付いて歩いているその時、足元にあの点字ブロックがありました。自分の頭の中で勝手に納得して一人で喜んでいると、後ろから誰かが走ってきました。僕はその人を守る気持ちで、走ってきた人に自分がぶつかり何とか守れました。改札を出てその人に「あの失礼とは思いますが、ぶつかられた時に悔しいと言つたらいいか分かりませんが、そういう気持ちになつた事はあ

りますか?」という質問をしました。すると、「私はそうは思わない。むしろこれでいいと思う」と言われ、頭が混乱しました。「確かに目が見えていたらいいけど見えないお陰で気付いた事もある。もしわがままを言っている人がいたら、一声だけでもいいから言って欲しい。それなら君みたいな優しい人がもっと増えて欲しいね。そして困っている人がいたら、一声だけでもいいから言って欲しい。それは僕らにとても嬉しい事なんだ」と言われて恥ずかしい気持ちになりました。「何て自分は愚か者なんだ!」と自分を叱りながら「ありがとうございます」と言つて僕は走り去りました。

「人間は誰も普通」。障害者は違うと思っている若者が最近多いように思う。一般人と障害者なら障害者の方が下と見る人がいる。そうではない。そういう人がいるなら聞かせてやりたい。あの人の言葉を。障害のある人の明るい言葉を。いつでも出来る。誰が相手であってもいい。困っている人に少し近寄ってこう言えばいい。「大丈夫ですか?」、たつた一言のこの言葉でいい。そうすれば人と人はもつと深く繋がる事が出来る。誰とでも繋がる事の出来ることの言葉を自分は忘れないようになろう。「大丈夫ですか?」、この言葉だけは。

第13回 府中市小中学生の人権作文発表会発表者一覧

発表順	学校名	学年	発表者	題名
1	府中第六中学校	3年	今井信太朗	「大丈夫ですか?」
2	府中第六小学校	5年	泉山涼子	私を成長させた十分間
3	府中第五中学校	3年	神原桃子	「笑顔」～今と未来を生き抜くために～
4	府中第二小学校	4年	野田奎裕	命のバトンタッチ
5	府中第一中学校	3年	福原良子	忘れてはいけない事
6	府中第七小学校	6年	山田胡有美	パラリンピック
7	府中第八中学校	2年	齋藤かおり	駅での出来事
8	府中第九小学校	6年	加藤千春	おじいちゃんから教わったこと
9	府中第四中学校	2年	村上紗彩	同じ目線で、立場で、ありがとうございます
10	矢崎小学校	5年	高橋美穂	いじめをなくすためには
11	府中第七中学校	1年	高野怜	身近にひそむいじめ
12	浅間中学校	2年	福田杏奈	一歩ふみ出せば・・・
13	若松小学校	5年	西岡尚輝	学校生活
14	南白糸台小学校	3年	大西真樹	まほうの言葉
15	府中第九中学校	1年	上脇健太郎	人間のすごさ
16	府中第五小学校	6年	宮里優太	母親と迷子の女の子
17	府中第十中学校	2年	笠原浩樹	障害のある人について
18	住吉小学校	6年	師岡弥於	おばあちゃんと戦争
19	府中第三中学校	2年	内田夏美	第二次世界大戦とそれからの生活
20	府中第十小学校	6年	中澤彩夏	一人一人の個性
21	府中第六中学校	3年	松村美希	私の「心の仮面」
22	府中第二中学校	3年	木暮健悟	インターネットと人権
23	府中第六小学校	5年	調所舞香	言葉で人は変われる
24	府中第一中学校	3年	渡邊万由子	窓からの小さな応援



地域とのかかわりを 大切にした教育の推進

～本校の教育実践～

府中市立白糸台小学校

校長 小澤 誠一

『府中市学校教育プラン21』には、『ふるさと』について、次のように記述されている。

「ふるさとは人と人との心のつながりを生み出し、人々が互いに理解し尊重し合う土壤となるものであり、そこではぐくまれた文化は、心豊かで質の高い性質と精神的な満足感をもたらす心のよりどころとなるものです。生まれ育った土地の文化としての『誇り』を育てるうえで大きな意味をもつっています。」

その地に生まれ育つ児童にとって、その地域（郷土）は、人と心の交流を生み、人間として生きていく上での基盤をつくり、また、人としての誇りと心の安らぎを与えてくれる。

現代社会は、良しも悪しきも急速な変化を見せ、その状況が児童の生き方（価値観）や児童の生活に与える影響は、きわめ

て大きいものがある。現代の社会状況の中を生きる児童には、・人と豊かなかかわりができる。

- ・規範意識や社会性に乏しく、自己中心的である。
- ・自尊感情や目的意識が低い。
- ・等々の育成上の課題も指摘されている。

このような課題をとらえ、児童をよりよく成長させていくためには、児童が生まれ、育つ地域（郷土）を視点においていた教育の推進が必須となる。

地域の自然に触れさせ、また地域の人々や文化施設に大いにかかわらせることで、児童に地域のよさを感じさせ、児童の健全な成長を培っていくことができる。地域の人々とのかかわりの中で、児童は、

- ・人としての生き方や生活の仕方、社会を生きていくためのマナーを学び、
- ・自分の存在や自分のよさを自



●近隣保育所の子どもたちと本校一年児童との交流活動
(上段の写真)

道徳の時間の指導内容「幼い人に温かい心をもち、親切にしようとする心情を育てる」をと

らえた交流活動である。道徳的実践の場面で公園や本校体育館で交流し、ゲームなどを楽しんだ。学芸会の招待状を送ったり

自分が生まれ、育つ地域の素晴らしさ、地域の人々の心の温かさを感じされることで、児童はよりよく成長していく。

○高齢者や障害のある児童との交流活動、たてわり班活動等を通し、人と人とのかかわり合いを大切にし、互いに理解を深め、尊重し合い、共に生きていく心情を育てる。

○家庭・地域との連携を強化し、心身の健康づくりや基本的な生活習慣の定着を図る。

○地域の人材や施設の積極的活用を図る。



表現する楽しさを
広げる工夫に取り組む

府中市立矢崎幼稚園において

幼稚園教諭研修会が12月10日（水）矢崎幼稚園（高橋大造園長）にて開催された。

当曰は、絵画製作活動を通していろいろな表現の工夫について、4クラスが研究保育を行い、終了後、研究協議会が行われた。

○4歳児クラス

「サンタクロースの折り紙」

・りす組 龜田亜矢子教諭

○ 5歳児クラス
・きりん組 須恵光子教諭
「紙版画ー自分の顔」
・らいおん組 藤原さゆり教諭
「紙版画ー自分の顔」

◆5歳児クラス研究保育か

•指導者 須恵光子教諭

・園界 きりん組 3名

・四つ切りの画用紙に大きく表

現できるようになつてきてゐる。

・人物画になると手・足が棒状になることが多く、体の状態など意識していくような言葉

- ・ ゲループを回りながら、上手に出来たものを褒めたり、他の子どもたちに見せて参考にさせたりする。

◆研究協議会

出来たで終わりではない。新たな材料で作る喜び、工夫する楽しさを味わわせ、新たな経験をさせていくことが大切である。表現の方法は一つではなく、いろいろな表現の方法

A black and white photograph showing a child's hands and face as they work on a paper craft. The child is holding a piece of paper with a large circle cut out of it, and they are using a small tool to work on the edge of the hole. In front of them is a larger sheet of paper featuring a drawing of a rabbit's head and Japanese text. The text on the paper includes "おもしろいアート" (Interesting Art) and "4つの手遊び" (Four Hand Games). The background shows a light-colored wall.



◆指導・講評

- ・年長組は同じ紙版画の製作だったが、作り方が違っていた。一つのクラスは、みんなが同じように進めていた。もう一つは個人によって進み方が違っていた。

◆指導・講評

聖徳大学児童学部児童学科准教授 原本 憲子先生

○研究保育の指導

 - ・子どもの育ちが素晴らしい。年少組の一人一人が作ったサンタクロースを全体で見てクリスマスツリーにする
 - ①危機管理とは
 - ・教員の危機管理意識の高揚
 - ②保育の自己点検・自己評価
 - ③幼稚園の安全点検
 - ・固定遊具、園具や遊具、保育施設・設備などの点検
 - ④事故発生のメカニズム
 - ・事故発生の原因・誘因
 - ・事故発生を防ぐ対策
 - ⑤園外保育の安全対策
 - ・安全管理における心構え
 - ⑥教員本削のポイント

幼稚園における

安全管理 · 安全指導

があり、それぞれの楽しさを味わわせて、子どもの経験を広げていくことが大切である。

『名も美しい多摩川の流れのほとりここに立つ』と四谷小学校の校歌には謳われています。つり人や水鳥が群がる美しい多摩川に代表されるように、子どもたちを取り巻く自然環境は、市内の小学校でもナンバーワンと言えるほど、素晴らしい環境にあります。

学校教育目標は、①学ぶよろこび②ふみ出すつよさ③人へのやさしさです。この学校教育目標を実現し、生きる力（確かな学力 豊かな心 健やかな体）を育成するため、学校・家庭・地域が連携し、子どもたち一人一人を愛する心を基盤にして教育活動に全力で取組んでいます。

『名も美しい多摩川の流れのほとりここに立つ』と四谷小学校の校歌には謳われています。つり人や水鳥が群がる美しい多摩川に代表されるように、子どもたちを取り巻く自然環境は、市内の小学校でもナンバーワンと言えるほど、素晴らしい環境にあります。

本校では、子どもの思いや願いを大切にする授業を推進するため、年2回の児童アンケートを二年生以上に実施し、授業改善や学級経営に生かしています。また、年間5回の学校公開日での保護者、地域の方の教育活動の評価、そして学校評議会・学校運営連絡協議会等による学校評議も加え、開かれた学校づくりを推進しています。

わが校の特色ある教育 NO.29

あすの時代をになう児童の育成を目指して

～新学習指導要領
指導内容の充実に向けて～

府中市立四谷小学校
副校長 大泉 永



1 言語活動の充実

新学習指導要領では、「言語活動の充実」が大きな取り組み課題として挙げられています。

本校は今年度、研究推進校として全教科・領域を通じ『人とのかかわりの中で、自分の思いを実現しようとする子』（コミュニケーション力の育成を目指して）をテーマに、校内研究に取り組んでいます。低学年は学級活動で、演劇的表現活動を取り入れ「宇宙人パコの宿題」を題材にし、中学年は道徳で、「相手のことを考えて行動しよう」をロールプレイを活用した授業で挑戦しました。また高学年は、国語の「ニュースとことん見聞録」にグループの話し合いやワーキシートを活用し、コミュニケーション力の育成に努めました。

2 理数教育の充実

反復学習などの繰り返し学習等の工夫による「読み・書き・計算」の能力の育成が今後重視されていくことから、毎週水・木の朝学習（15分）は、計算・漢字を重点的に指導する基礎学習タイムの時間とし、60回の年間計画を作成し、全学年で「読み・書き・計算」の力を自身に付けています。算数では、一・二・三年生にTT指導、四年生以上は少人数指導を取り入れ、コミュニケーション力を育てています。

4 体験活動の充実

多摩川をフィールドに魚、植物、鳥等の体験学習を学校支援ボランティア（保護者）の方々の協力により推進しています。また、地域の特別養護老人ホーム「よつや苑」との交流を積極的に行うと共に、運動会への招待や展覧会での作品展示など、「よつや苑」の方の参加活動を通して、かかわりあい、共に生きていく意識を育てています。



ス別学習や習熟度別学習を通して、90%以上がわかる授業を目指しています。

3 伝統や文化教育の充実

地域の方々から寄贈された貴重な文化財を「歴史の小部屋」に整理し、歴史学習に活用しています。また、東京工科大学との連携を通し、「歴史の小部屋」のパソコンによる教材化を実現しました。他校でも本校のホームページにアクセスすることができます。生活科の授業では、四谷文化センター南側の水田に造られた「どんど焼き」を見学する等、自分の住む地域の伝統行事や文化についての理解を深め、尊重する態度を育成しています。

5 道徳教育の充実

道徳授業地区公開講座は、土曜日に全学級の授業公開と講師による講演会を実施し、保護者・地域の方と共に道徳教育について意見交換をしています。また、児童会役員選挙で選ばれた子どもたちが中心になり、全校児童と保護者で毎朝行われる「あいさつ・見守り運動」は、友達に優しく接する態度や礼儀の育成に成果をあげています。

校歌に謳われている「あすの時代をになう 若い力が育つところ 四谷小学校」の実現に向け、学校・家庭・地域の連携をさらに強力にし、本校の教育活動を今後も推進していくます。

**府中市教育委員会研究協力校
研究発表会案内(2月)**

字じの窓

◆白糸台小学校 2月6日

- 研究主題「豊かに生きる子ども」(算数科他) ○講演「個力をのばし組織力を高める」
講師 東芝ブレイブルーパス
前監督 薫田真広氏

道徳授業地区公開講座(2月)

◆2月12日(木)

☆新町小学校 13時45分
道徳授業公開日・講演会

◆2月17日(火)

☆府中第四小学校 8時30分
学校公開日・講演会

☆府中第六小学校 8時50分
学校公開日・講演会

◆2月18日(水)

☆日新小学校 8時50分
学校公開日・講演会

☆住吉小学校 8時35分
学校公開日・講演会

◆2月19日(木)

☆府中第三小学校 13時30分
学校公開日・講演会

◆2月4日(水)

☆府中市立小中学校教育研究会
研究発表会案内

◆2月4日(水) ○会場:府中第三中学校体育館
○講演「新しい学習指導要領の目指す方向と移行期間の課題」
講師 文部科学省視学官 吉川成夫先生

◆2月4日(水) ○会場:府中第三中学校
○講演「新しい学習指導要領の目指す方向と移行期間の課題」
講師 文部科学省視学官 吉川成夫先生

2月研修会・委員会等予定

日	曜	研修会・委員会等	会 場	研修内容等
2	月	特別支援学級代表者会	教育センター	代表者会、分科会
3	火	初任者等研修会	南町小学校	特別支援学級授業研究
3	火	職場体験実行委員会	教育センター	来年度に向けての課題検討
5	木	中学校社会科副読本編集委員会	教育センター	全体会
6	金	副校長研修会	教育センター	講演「子どものからだの危機」
9	月	生活指導主任会	教育センター	研究発表会、全体会
10	火	算数・数学指導員研修会	教育センター	講演会
23	月	ICT活用推進委員会	教育センター	全体会
24	火	初任者等研修会	教育センター	閉講式
27	金	小学校英語活動推進委員会	教育センター	来年度に向けての課題検討



利用し、匿名で、ないことをあらすのである。

このような実態に対応するに

は、子どもの「自己抑止力」を育成することが大切である。先

に挙げた、インターネットを使つたコミュニケーションの特徴を

子どもが理解し、メールを発信する前に、内容がいじめにつな

がる不適切なものでないか、自分

の意を十分に伝えられ

るようになっているかを

確認する。そして、相手

を傷つけるようなメール

は「発信しない」「参加

しない」と自ら誓う。こ

のような自己抑制力をは

ぐくむ取組を学校、家庭

で行つていただきたい。

府中第一中学校では、

日常的に生徒の情報モラ

ル向上に取り組んでいる。

同校の生徒会では、「携

帯・インターネット○ケ

ーネットを使つたコ

ミュニケーションが、

まったく新しい形のコ

ミュニケーションであ

ることの自覚が必要である。そ

の特徴は、①瞬時に対応できる

(じっくり考えずに)、②一方的

に送ることができる(匿名で)、

③不特定多数の人が参加できる、

④送った内容がそのまま残つて

いく、などである。「ネットい

じめ」はこうしたインターネットの「陰」を啓発し、ネットい

トの「陰」を啓発し、ネットい

じめを根絶させたい。

(指導主事 国富尊)

川崎平右衛門に共感すること

学芸係主査 馬場治子

このところ特別展準備のため

もあって川崎平右衛門について

を考えることが多い。郷土かるたの読み札「ききん救つた平右衛

門」に惹かれてか、副読本でも、

武蔵野新田での彼の仕事が、あ

たかも篤志家だったかのよう

語られている。

果たしてそうだろうか。彼が

武蔵野新田で成したことは、む

しろ御救い金という一方通行の

救済ではなく、余剰金を生むこ

とが可能な借用金制度の創設で

あり、適正作物を見つけて農民

を再生産可能な状態、即ち納税

可能な状態にしてやる施策だっ

た。だからこそ、幕政にとって

有用と判断され、農民から代官

に取立てられたのである。

江戸時代の土農工商の枠が、

一時代前に言われた程強固でな

いことは確かだとしても、この

類の転身に例は少ない。しかも

五十歳近くになつてのことであ

れば、彼を決心させたものは何

だつたのだろう。余程仕事に面白さを見出したのだろうか。

この新しい境遇を生かそう、

というチャレンジ精神にこそ共